

(財)北海道サッカー協会 21世紀 8戦術アクションプラン

～サッカーファミリーの拡大～

サッカーファミリー拡大

普及拡大

キッズからシニアまで
フットサルの普及
女子サッカーの普及

事業見直

各種大会の展開
指導者の養成
審判員の養成

基盤整備

協会組織の活性化
協会財政基盤の確立
市町村協会の設置

未来への目標づくり

- 戦術1 未来への目標づくり
- 戦術2 生涯スポーツとしてのサッカーの普及拡大(キッズからシニアまで)
- 戦術3 フットサルの普及
- 戦術4 女子サッカーの普及
- 戦術5 年代, 競技力, 少人数に応じた各種大会の展開
- 戦術6 指導者, 審判員の養成
- 戦術7 各地区協会組織活性化と財政基盤の確立
- 戦術8 全道市町村へのサッカー協会の設置

8戦術実行数値目標(実施開始年度2002年)

2001年(平成13年度)	計画策定等実施年度
2002年(平成14年度)	8戦術実施開始年度
2006年(平成18年度)	5年後登録選手数 平成8年度並数 (53,500名)
2015年(平成22年度)	JFA女子プロジェクト目標 男子登録数の10%確保
2015年(平成27年度)	JFA目標に準じて 250,000人
2050年	JFA目標に準じて500,000人 (北海道人口の10%)

戦術 1 未来への目標づくり

<方策>

- ◆ 北海道サッカー協会及び各地区協会は、今後地域社会においてサッカー活動を進めるに当り、地域社会に根付いたサッカー組織としての社会的責任を持つことが求められ、その地域性や独自性などを生かした、組織活性化のためのビジョン・指針・行動計画等の目標設定が必要である。
- ◆ 今後、広く地域社会から理解と協力を得るためには、サッカー以外の分野からの人材活用や地域スポーツ振興の一翼を担う総合型地域スポーツクラブ等の設置支援を積極的に進めることが必要である。
- ◆ 地域の青少年に夢と希望を与えるため、北海道唯一のプロサッカーチーム・コンサドーレ札幌を支援するとともに、密接な連携から地域密着型の事業展開を積極的に推進することが求められる。

<具体的内容例>

普及拡大

- 地域との協働による総合型地域スポーツクラブの立ち上げ
- 地域に於ける異業種との交流による新しい人材の確保と活用
- 地域貢献活動の展開（環境改善、青少年育成、他競技との交流）
- 地域にサッカーへの興味と関心を高めるためにプロサッカーのもつ魅力などを生かした事業展開

事業見直

- ビジョン・指針等の策定
- 短期（～3年）中期（～5年）長期（～10年）の行動プラン策定
- 計画実施に対する評価制度の導入

基盤整備

- 各地区協会に21世紀8戦術対応部門の新設（目標2年以内）
- HFA及び各地区協会間の情報共有化を図るため、ネットワーク化を図る。
- 地域の自治体や他競技団体との協働により地域クラブ設立に向けた環境づくりを図る。

戦術 2 生涯スポーツとしてのサッカーの普及拡大 (キッズからシニアまで)

<方策>

- ◆ キッズ年代からの継続的なスポーツ活動を助長し、年齢・性別を問わずシニア年代まで楽しめる生涯スポーツとして位置づけ推進する。
- ◆ 社会人選手や地域のスポーツ指導者の利活用等、地域としてU-10年代のサッカー普及を図る。
- ◆ 40代以上のシニア年代における活動の受け皿づくりを早急に図り、生涯にわたりサッカーを継続していけるよう、組織として取り組む。
- ◆ 地域の自治体や学校及び体育団体との連携により、会場の確保・審判の養成・指導者の育成など、生涯に亘ってのサッカー活動への条件整備を図る。
- ◆ JFAキッズプログラムの展開。

<具体的内容例>

普及拡大

- キッズサッカーの普及→保育園・幼稚園と連携 (U-6)
- 4種の年代別等のきめ細かい大会・イベントの開催・グリーンカードの効果的活用
- ファミリー及び母親と幼児の教室等のサッカーイベントの開催
- 地区協会内にシニア担当役員の専任化と受け皿組織の構築
- 社会人選手の少年団指導者の推奨
- シニア年代が参加できる地域リーグの創設と加盟促進
- 全道市町村サッカーフェスティバルの継続開催

事業見直

- 複数学区の小学生を集めたサッカー教室の開催
- Jリーグ選手等のサッカー教室の開催
- サッカーに馴染みのない小・中学教員向け指導者講習会などの開催

基盤整備

- 市町村協会設置との関連で市町村社会体育・生涯スポーツ・保健健康行政との関連を深め、指導者、審判、競技グラウンドなどを確保
- 芝グラウンド増設、整備の行政への働きかけ

戦術3 フットサルの普及

<方策>

- ◆ いつでも・どこでも・誰でもができるフットサルの魅力と北海道の気候的条件を生かし、通年を通してのフットサル競技の浸透を図る。
- ◆ 各地区協会はフットサルに携わる人材育成を行い、フットサル専任部門を設置し、広く地域住民にその手軽さを周知する。
- ◆ 少子化に伴う11人制からの移行に対応し、体育施設の確保（又は整備）や指導者の養成などを図り、通年実施に向けて環境整備を図る。
- ◆ 生涯スポーツに適したフットサルの特性を生かした、年代別・レベル別の競技機会を増やす。

<具体的内容例>

普及拡大

- 市民参加のフットサル競技（ファミリーフットサル大会等）の開催
- 職域・地域等のイベントでのフットサル共催事業の推奨
- 冬季イベント等とのタイアップ事業
- メディアの積極的活用と民間施設とのタイアップ事業の展開

事業見直

- フットサル審判員及び指導者養成講習会の開催
- 各地区におけるフットサル競技通年開催
- 年齢別、競技力レベル別等の各種大会を創設
- 各地区におけるフットサルリーグの創設
- 各地区のカテゴリー別地域別の担当者発掘と育成

基盤整備

- 各地区協会にフットサル担当者の配置と組織化
- 市町村協会設置との関連で市町村教育委員会と連携を深め体育施設の確保（学校施設の活用、フットサルゴールの整備等）
- フットサル専用競技場設置の行政への働きかけ

戦術 4 女子サッカーの普及

< 方策 >

- ◆ 女子選手の継続的・効果的な活動（U-12, U-15, U-18）の展開を基本に、競技人口の増加を図る。
- ◆ J F A「クラブ創設事業」を突破口に、女子チームの創設を図る。
- ◆ 各地区組織に女子専任担当者の配置と組織化を進め、少年団指導者の理解と協力体制の構築を図り単独少女チームの再生を目指す。
- ◆ 女子指導者の育成と女性審判員の養成を年度計画で推進し、女子サッカー活動者のつながりを全道に広げる運動を興す。
- ◆ J F Aキャプテンズミッション6「レディースサッカーの活性化」を受けて事業展開を図り、女子サッカー全体の発展へとつなげる。
- ◆ Lリーグ参加を目指す女子チームの育成強化

< 具体的内容例 >

普及拡大

- J F A女子トライアル制度導入をきっかけに女子サッカーの活性化にチャレンジ！
- 女子児童の少年団チームへの参加促進
- ホームページ等での情報提供の充実
- 地区協会でのレディースフェスティバルの開催
- 各地区協会に、中学年代の女子チームを創設
- 女子サッカーPRのためのメディア活用

事業見直

- 各大会の男女同時開催（決勝戦等）の実施
- 地区協会での女子大会の創設
- 女子指導者研修会の実施及び養成強化
- 女子審判員の養成強化
- 地区協会でのウーマンズ・カレッジの実施
- 小・中学校教員へのサッカー指導者講習会の開催

基盤整備

- 道協会および各地区協会に女子普及専任担当者を配置。
- J F A女子委員会との連携推進
- 各組織において女性役員の育成及び選出
- 施設・設備の環境改善と整備

戦術 5 育成年代, 競技力, 少人数に応じた各種大会の展開

< 方策 >

- ◆ 各カテゴリー別に年代別, 競技力レベル別, フットサル, 5人制, 7人制, 8人制等の大会に取り組み, 少子化に伴う競技困難な環境の改善を図る。
- ◆ 3種・4種等の単独チーム維持が困難な場合には, 学校合同チームや地域クラブ等の展開を検討し大会参加を可能にする。
- ◆ チャレンジドサッカーを通してスポーツへの参加を促進し, ノーマライゼーションの具現化を図る。
- ◆ 幼稚園等各種団体組織, その他幼児年代の事業, 教育に関する団体と連携し, JFAキッズプログラムを積極的に展開する。
- ◆ チームの競技力に応じて年代別, レベル別にリーグ戦を行える環境を整えてプレーする機会を増加させ, 普及および強化を図る。

< 具体的内容例 >

普及拡大

- 中体連と連携を密にし, 複数校合同チームの結成, 活動を支援
- JFAパイロットFAキッズプログラムの積極的展開
- 自治体, 福祉関係団体との連携によるチャレンジドサッカーの拡大
- JFA「クラブ申請制度」を活用してクラブ化を促進し, 多世代でサッカーを楽しむ環境を整備 (一貫指導や種別を超えた大会出場の実現)

事業見直

- 各地区サッカー協会は, 年代別, 競技力レベル別大会の実施
- 年代別サッカー大会の継続実施 (U-6, 8, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16)
- 誰もが気軽に参加でき, 楽しめるサッカーイベントの開催
- チャレンジドサッカー大会の実施

基盤整備

- リーグ戦を積極的に展開できる条件整備
- 少年用サッカーゴールの整備促進

戦術 6 指導者, 審判員の養成

< 方策 >

- ◆ J F Aメンバーシップ登録制度により一元化された指導者及び審判員の養成と指導技術向上の事業展開と連携を取り、有資格者の資質向上を図る。
- ◆ 道内6ブロックに配置された、公認47FAインストラクターによるC・D級コーチ養成講習会および指導技術向上のための研修会等を積極的に開催する。
- ◆ 審判員を目指す、大学在学中や20代前半の人材掘起しを図り、優秀な上級審判員を確保するとともに、ユース審判員の養成を促進し、若い世代から審判員への興味を持つような環境を作り出して行く。
- ◆ 各種別大会のリーグ戦化に対応する審判員の養成を図る。

< 具体的内容例 >

普及拡大

- 各地区における審判講習会の開催
- 地域クラブ指導者へライセンス取得の働きかけ
- 女子サッカー指導者の養成講習会
- J F A公認キッズリーダー養成講習会
- ライセンス保有者の積極的活用（各学校への働きかけ）

事業見直

- C・D級コーチ養成講習会および研修会を複数開催
- 指導者、審判員の上級資格取得機会の拡大
- ユース審判員（U-15, 18）の養成を促進、活動機会の確保
- リフレッシュ研修会の充実

基盤整備

- 各地区協会における指導者および審判員の育成環境の整備
- 開催曜日の工夫などによる各種講習会への参加環境の改善
- 指導者派遣バンクの設置

戦術 7 各地区協会組織活性化と財政基盤の確立

< 方策 >

- ◆ 各地区協会の組織改革により、協会と各種別連盟、市町村協会との協力体制を構築し、サッカーファミリーの拡大を図るとともに、専門的で機能的な体制を築き、かつ協会の活性化を目指すことが必要であり、その為の新しい人材の育成と次世代への継承を計画的に図る。
- ◆ 協会並びに役員は、その使命感や責任性を踏まえ、高い業務遂行意識を持ち、その置かれた社会的責任の重さを認識し、常に自己啓発を図ることが必要である。
- ◆ 各地区協会は現状の登録料依存体質による脆弱な協会財源を見直し、組織改革と斬新な事業展開により安定的継続的な協会財源確保策を確立する。
- ◆ J F Aメンバーシップ制度による登録還元金及び各種支援制度の活用。

< 具体的内容例 >

普及拡大

- サッカー協会組織に関心のある多様な人材の登用促進
- 地域と協働し、地域団体活動と連帯を図るための役員の配置
- J F A及びH F A支援制度の積極的活用
- 地域企業・団体との協働によるサッカーイベントの開催

事業見直

- 地区協会に各種別委員会や各種連盟を組織化し、並行して協会役員を増員したうえで各事業の推進
- 道協会との連携・協力体制で「冠」事業や各種イベントの実施

基盤整備

- サッカーの普及とファミリー増加を目的とする事業等の拡充
- 各地区協会や各種連盟等の事務局体制強化
- 他競技団体との協力体制の構築や意見交換
- 地区協会の、財政基盤確立案を策定
- 道協会からの様々な財源確保にかかわる情報の提供による具体化

戦術 8 全道市町村へのサッカー協会設置

< 方策 >

- ◆ 市町村行政との連携を可能にするため、サッカー環境と地域スポーツの環境整備を図り、地域住民の生涯スポーツ振興に寄与する。
- ◆ 「全道市町村サッカーフェスティバル」などを活用して、市町村協会設立講習会などを継続的、恒常的に開催する。
- ◆ 13地区協会組織下にある市町村協会設置状況調査と協会規約等の調査研究及び未設置市町村の実態調査等を実施する。
- ◆ 「市町村協会設立マニュアル」の作成及び実態調査を通じ13地区サッカー協会と連携し、情報の共有化を図る。

< 具体的内容例 >

普及拡大

- 「全道市町村サッカーフェスティバル」での、各カテゴリーへの市町村チームの参加拡大
- 協会設置後、HFAとの関係構築に伴う補助制度の活用
- 未組織の全市町村へ各種イベント実施への啓発
- HFAによる設立マニュアルの整備
- JFAチャレンジFAプログラムの展開

事業見直

- 道協会と各地区協会及び現有の市町村協会とが事業を共催
- 各地区協会所轄地域内での交歓事業の計画
- 施設の確保、活用による新たな事業の計画
- 市町村協会設置に向けた実態調査の実施

基盤整備

- 道協会との支援体制を再構築し、地区協会と市町村協会との連携強化
- 各年代における地区及び地域協会へのダイレクト・ミーティングで情報交換の定例化